



石巻のみなさんと東北の山を楽しみました！

(株) コロンビア様から寄贈していただいたトレッキングシューズを受け取っていただいたみなさまから寄付をしていただき、その寄付を活用して、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市にお住まいのご家族をお誘いして、東北の山々を共に楽しみました。8月26日に実施した船形山は、次回の機関誌でご報告させていただきます。

★秋田駒ヶ岳(7月14日～15日)

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)
石巻から(大人3名、子ども4名)

☆7月14日

今日は、石巻から来る4家族7人と共に、秋田駒に登る日だ。新幹線「こまち」で、盛岡を出て少しすると雨が降り始めた。やはり雨が降るのかなと残念な気持ちになるが、石巻の人たちと出会える楽しみが大きく、今日の登山に期待が膨らむ。

田沢湖に小型バスが到着した。石巻からのバスに違いないと近づいてみると、引率して下さったAさんが手を振っていた。バスが止まるとすぐに中に入り、石巻のみなさんと会えた喜びに気持ちが弾む。中1で一人で参加したT.T君、小5で今回参加申込第一号のR.Gちゃん、小3のS.Kちゃん、小1のH.Kちゃん、そして女の子たちのお母さん、華やいだ雰囲気、八合目の駐車場に向かう。

八合目は深い霧の中だった。まずは自己紹介

をして、出発する。感想にぴーまんさんが書いているように、お母さんたちはみんな美人で、子どもたちはみんなかわいい。T.T君は、陸上部で鍛えていて頼もしい。新しい出会いは、とにかく新鮮で、わくわくする気持ちで一杯になる。

山頂で天気が悪くなると良い写真が撮れないので、まずは登山口で集合写真を撮る。そして、片倉展望地方面に歩きはじめると、ハクサンチドリ、マルバシモツケ、ミヤマダイコンソウ、アカモノ、ウラジロヨウラク、ミヤマハンショウヅル、ベニバナイチゴ等々、次々に高山植物が現れる。石巻の人たちも出会った花をカメラに収めている。霧で何も見えないけど、そのおかげで足下の花がよく見えるという言葉に元気づけられる。



阿弥陀池で昼食中の石巻から来た4人

片倉展望地を過ぎると、ハクサンシャクナゲやオノエラン、エゾツツジなどが見られるようになる。さらに、チングルマやヒナウスユキソウ、ムシトリスミレ、ヨツバシオガマなどが見られるようになると、阿弥陀池の畔に到着した。ここで昼食タイムとする。



阿弥陀ヶ池で昼食中の石巻から来たG親子

昼食後は、木道を歩く。木道は、途中で阿弥陀池の上に付けられていて、子どもたちはそちらを少し怖がりながら歩いている。少し行くと、秋田駒ヶ岳の最高峰、男女岳への登り口となる。石の多い道から階段になり、T.T君は先頭で登っていく。その後をS.Kちゃんが元気に登っていく。エゾツツジやトウゲブキが咲き、この道も花で一杯だ。



無数の毛に水滴が付いたエゾツツ

山頂に全員到着し、集合写真を撮る。周囲は霧で何も見えないが、石巻の楽しい子どもたちやお母さんたちと登れて、とてもハッピーな気持ちで一杯だった。

来た道を阿弥陀池まで引き返す。浄土平方面には、残雪があった。さらに少し行くと、突然目の前に小屋が現れた。阿弥陀池の避難小屋だ。

ここでトイレなどを済ませ、横岳への登りにかかる。中1のT.T君にFさんのサポートを体験してもらう。横岳の山頂に着くと、わずかだが霧が薄くなり、期待が持てそうだったが、それ以上晴れることはなかった。それでも、いづらか霧の薄い横岳山頂で集合写真を撮って下りにかかる。



横岳山頂にて

焼森付近は火山岩の砂礫地だ。よく見ると、コマクサが咲いている。大群落とはいかないが、コマクサに出会えてラッキーだった。タカネスミレやイワブクロも咲いていた。焼森からの下りは、砂礫地で富士山の砂走りのようだ。女の子やお母さんたちがキャーキャー言っている。とっても楽しそうだ。砂礫地を過ぎると岩の多いところを下り、沢を渡る。さらにハクサンシャクナゲの多いシャクナゲコースを下る。

八合目の登山口に到着すると、S.Kちゃんは後の人たちを迎えに行ってくれるし、R.Gちゃんは走って現れた。みんな元気いっぱいだった。



ヒナウスユキソウ

バスに乗り込んで、感想を聞くと、みんな楽

しかつたと言つてくれた。T.T君には物足りなかつたと思うけど、次の月山で力を発揮してもらおう。バスに休暇村まで運んでもらい、ここで石巻まで戻る人たちとお別れする。できればまた船形山でお会ひしたいですね。

普段の山仲間アルプでは泊まらない高級ホテルの休暇村で、温泉に入り、おいしい夕食を食べ、やわらかな寝床に入った。

☆7月15日

今日は、天気予報どおり雨で明けた。しかも、雨の勢いは強い。ほとんどの人が戦意喪失で、「今日は山には登らないだろう」と言っている。しかし、昨夜の夜行バスで田沢湖まで来て、そこからタクシーで来るMさんのことを思うと、簡単には中止できない。

雨が強いため、山はあきらめる方向になびき、朝食用に作ってもらった弁当を食べず、バイキングの朝食に切り替えてもらった。朝食時間の7時に、Mさんが休暇村に到着。中で待ってもらおう。おいしい朝食をゆっくり取り、最後にコーヒーも飲んでくつろぐ。「今日は山に登らないよ」という人もいたので、温泉めぐりコースに変更し、黒湯、孫六温泉と経由し、大釜温泉に行くことにする。周囲はすばらしいブナ林だ。

雨は強いものの、実際に歩いてみると、それほどでもない。Nさんが、「行けるところまで行くんでしょ」と当然のように予定変更を迫る。「そうしましょう」と簡単に予定を変更して、乳頭山方面に向けて登ることにする。しかしだれからも苦情が出ないところが、柔軟性のある大人の団体ですね。

ところどころぬかるんだ道をぐいぐい登っていく。ブナの実や葉がそこら中に落ちてゐる。こちらのマイヅルソウは、すでに実を付けてゐる。雨は時折強くなるが登れないほどではない。ただ、出発が遅かったので、帰る時間も考慮しながら、標高 1,100m 付近で引き返すことに

する。ただ、今日も乳頭温泉に泊まる4人は、そのまま登っていくことにする。道はすべりやすいものの、危険なところはないので、大丈夫だと判断し、行ってもらふことにする。「無理をしないでね」と伝えて、私たちは下山にかかる。上に登っていった4人は、稜線まで出て、トキソウなどを見られて大満足だったということでした。



雨の中、乳頭山方面に登る

道がすべりやすいため、Mさんは4回も滑って転んだらしい。雨合羽が泥だらけになってしまった。孫六温泉に下りてきて、登山道脇の水で泥を流す。ここからバス停方面に歩き、バス停に一番近い大釜温泉に入って汗を流した。

田沢湖に向かうバスの中では爆睡状態だった。もう1泊するため、田沢湖畔で下りるFさんたち4人とはここで別れ、2日間で帰るのは4人だけとなった。予定より1時間早い「こまち」に乗って熱帯夜の関東に向かう。

石巻の人たちとの想い出や、今日の雨の中での上り下り、そしてすばらしい温泉を脳裏に焼き付け、再び爆睡状態に落ちていった。

記：M.Aさん

《参加者の感想》

朝の声出し(自己紹介)のときに「昔から秋田美人という言葉は知っていましたが、僕は今日『宮城美人』という言葉を知りました」てなコメントをしてから一日中、テンションは、上がりっぱなし！年甲斐もなく？！

僕だけじゃないですよ。秋田駒では、みんなが

華やいていましたね。若い人が一緒にいるってそれだけで好いですよね。

「アルプのメンバー増強をどう図ってゆくか」そんな難問だって、今回のような華やいた山行が楽しめるなら、簡単解決間違えなしです。宮城から参加くださったみなさんに「ありがとう」の心を込めて、一句作ってみました。

むらさきの シロバナジャスミン 今つぼみ

(紫月)の シロバナ(白花)ジャスミン(莉子) 今つぼみ 自画自賛したいところだけれど・・・分かるかな???

記：ぴーまんさん

【石巻のみなさんからの感想】(提出順)

秋田駒ヶ岳のちょう上にのぼるのは大へんでした。

でも、ちょう上につくとちょっときりもはれて、下がちょっと見えるようになりました。

山の空気は、とてもおいしかったです。

ちょっとおりと、雪も見えてとてもきれいでした。

ちょっと登ると、またちょうじょうに出て、くだるときは、ぢゃりみたいなところで、足をすべらせて、とまらなくなりました。

ロープをつかんだけれど、とまらなくて、大へんでした。それから、ころんではばかりでも大へんでした。さいしょは、ついていけたのに、さいごのほうは、ついていけませんでした、

でも、お昼のおにぎりは、おいしかったです。

記：S.Kちゃん

初めて山登りをしました。本当は山にも花にもそれ程興味はない自分ですが、(疲れたけれども)山登りがこんなに楽しいと感じた自分に驚きました。花もとてもかわいかったです。今回、娘と一緒に参加させていただきましたが、娘がこんなに「楽しかった」「また行きたい」

と喜んでくれたのが、とても嬉しかったです。

サポートしながら一緒に歩いてくださったみなさまに、とても感謝しています。ありがとうございました。

記：E.Kさん

山仲間アルプのみなさんへ

私は、山登りは、2度目となりました。秋田駒ヶ岳では、いろいろな人に出会いました。花に可愛い人や鳥に可愛い人、また全もうの人にふれ合いました。花に可愛い人は、いろいろな高山植物をされていて、町にはない花でいっぱいとてもきれいでした。鳥に可愛い人は、鳥の鳴き声で何鳥かをすぐにわかり、すごいと思いました。全もうの人は、頭が良くアルプ仲間のリュックサックをつかんで、みなさんがゆうどうをし、しじした方にすすんでいきます。とても頭がいいと思いました。石巻からきていた1人の中学生とも山登りをして楽しかったらろうと思いました。

私は、今度船形山に山登りをするとき、みなさんとまたお会いすることを楽しみにしています。

記：R.Gさん

先日は、秋田駒ヶ岳の登山に参加させていただき、ありがとうございました。

震災からためにためまくってたストレスを山にぶつけよう!!!という軟弱な思いで、参加させていただいたのに、山登りのスペシャリストが前日から来石して同伴くださり、本当に申し訳なく、また深く感謝する思いで一杯です。

当日の山は、濃霧のため、下界を・・・という訳にはいきませんでした。さすがは花の名峰。とにかくきれいな高山植物に会うことができ、植物の生命の強さに、ただただ感動した1日でした。シャクナゲの美しさ、そしてコマクサの女王の品格。きれいでやわらかく、そして強く・・・品良く。女性としてみならわなけ

ればなりませんね！

アルプの会員の皆さまには、初対面とは思えない程、ごく自然に受け入れていただき、そして心よくサポートしていただきました。また視覚の方と一緒に登山とは思えないスピードでの登山はびっくりでした。慣れていらっしゃるとはいえ、先頭の方の的確な誘導はとにかく感心しました。思うことが一杯で、とりとめのない文となりましたが、この出会いを大切に、またご一緒できる日があれば、山へ、山へと向かいたいと思います。本当にありがとうございました。早々

記：E.Gさん

僕は、この登山に参加した当初は、不安もあったが、行く先々でかねて見たいと思っていた美しい自然や、細やかな人情に接しているうちに、その心配もなくなった。

秋田駒ヶ岳が花の名峰で有名なのは知って

★月山(7月28日～29日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)
石巻から(子ども1名)

☆7月28日

今回の月山も、石巻の子どもたちをお誘いしたが、今回は中1のT.T君一人だけの参加となった。T.T君は、今回もAさんが石巻から案内してくださった。

我々本隊は、夜行バスで鶴岡に着き、第一ホテルで朝食を取って、湯殿山行きのバスに乗り込む。別ルートで来るKさんは、電車が遅れたため、全くの別行動で、月山八合目から頂上小屋に向かうことになった。

湯殿山でT.T君とAさんと合流する。神社までの参拝バスがあるということなので、利用して時間を稼ぐことにする。湯殿山神社は、参

いたが、実際に登ってみると、僕が想像していた以上に、珍しい植物がたくさんあり、植物の宝庫のようだった。そんな山を登っていると、疲労や悩みが吹き飛ばすようなよい気分であった。

今回は、道に迷うこともなく、無事に登山できたのは、引率者がたのおかげです。本当にありがとうございました。

記：T.T君

コースタイム

7/14 秋田駒ヶ岳八合目(11:20)…阿弥陀池(12:50-13:10) … 男 女 岳(13:30-13:40) … 横 岳(14:20-14:30)…八合目(15:30)

7/15 休暇村(9:00)…孫六温泉(9:40)…標高1,100m(10:40) … 孫 六 温 泉(11:35-11:45)…大釜温泉(11:55)

拝する人たちであふれていたが、我々は、そのまま登ることにする。登山道脇には、モミジカラマツ、ミヤマカラマツ、クモマニガナ、イワシモツケなどがたくさん咲いている。

この登りは、月光坂と呼ばれ、次第に急になってくる。最後は、鉄梯子が連続する厳しい急登となる。中1のT.T君は、涼しい顔をして登っている。さすがは若さだ。



月光坂で出会った
修験者の方が法螺貝を吹いてくれた

登り着いた装束場で、昼食タイムとする。カ

ラフルな単独行の山ガールが、目の前を下山していった。

湯殿山を背に金姥に向けて登る。少しいくと残雪があり、そこで少し遊ぶ。雪解けしたばかりのため、まだ仏炎苞を付けたミズバショウが咲き、ショウジョウバカマも咲いていた。ゴゼンタチバナやミツバオウレン、コイワカガミなども咲いている。

金姥に着くと、月山スキー場を下る人たちが大勢いた。自家用車で来ると、スキー場から登るのが一番近道のような。金姥には、トモエシオガマやミヤマアキノキリンソウが咲いていた。



さらに登ると、ヒナウスユキソウが咲き、ヒナザクラ、トキシウ、ニッコウキスゲ等々、高山植物のオンパレードとなる。Yさんから幸せだという声がこぼれる。



牛首を過ぎ、岩混じりの道を登っていくと、鍛冶小屋の跡に着いた。昭文社の地図では営業している季節になっているが、資材が少し置い

てあるだけで、小屋の形すらない。あると思って間違って来たら大変なことになるところだった。



鍛冶小屋を過ぎると、わずかで山頂に到着する。山頂標識はなく、明日、Kさんともう一度登るので、すぐに通り過ぎて頂上小屋に向かう。霧で視界が全くないが、ロープに沿って少し行くと小屋に到着した。八合目から、一人で登ってきたKさんは、18時ころ小屋に到着した。

石巻から来たT.T君の被災した時の話を聞いたり、同じコースを登ってきた若い二人と歌を歌ったりして、早々に寝床についた。

☆7月29日

夜半に外に出てみたが、深い霧で星空は全く見えず。残念だが、あきらめてまた寝直す。



6時の朝食を食べ、6時45分に出発する。霧は深いですが次々に現れる高山植物を楽しみながら下る。ニッコウキスゲの群落、トウゲブキの群落、ハクサンイチゲとチングルマの群落な

ども楽しませてくれる。

早朝、八合目を出た修験者のみなさんが、どんどん登ってくる。行者返しを過ぎ、仏生池小屋に8時到着。この付近もお花畑で、すばらしいところだが、とにかく人が多い。また、八合目9時30分発のバスを逃すと、次は13時過ぎになってしまうため、もうゆっくりしてられない。早々に出発する。



キンコウカ

しかし、次々に大勢の人が登ってくるため、登り優先ではあるが、ゆっくり待ってられない。登る人の横を通らせてもらう感じで、下っていく。M.Yさんの感想のとおりだが、今回のように、あまりにも人が多すぎて、しかも急いで下る必要がある状況での問題点のため、出発時間を早くして、余裕を持って出ることがそれ以上に重要であることを認識させられた。



池塘の多い弥陀ヶ原に行く

次第に、雲が切れる時が出てきて、広い弥陀ヶ原が見えた。池塘もところどころに点在している。池塘の周りにはモウセンゴケが群生し、さらに行くと、キンコウカの群生地もあった。

八合目の駐車場に着くと、わずかに日も差し、下界が見えるようになってきた。下は雲が多いながらも晴れているようだ。

ここから羽黒山頂までバスで行き、三神合祭殿を見に行く。ここで、石巻に向かうT.T君とAさんと分かれる。また、次の船形山で会いましょう！

三神合祭殿から三の坂、二の坂、一の坂を下り、国宝の五重塔を見に行く。再建してから600年経っているが地震などにも負けずにしっかりと経っている立派な塔だ。近くには、樹齢1000年以上という爺杉もあった。

羽黒センターでバスを待つ間、久しぶりにかき氷を食べる。鶴岡駅に着き、第一ホテルで割引券を使って展望風呂に入って汗を流す。

帰りの電車では新しい出会いもあり、思い出や高山植物、みんなとの語らいなど、いっぱい心に押し込んで真夏の関東に向かった。

記：M.Aさん

《参加者の感想》

東北の霊場出羽三山（月山・羽黒山・湯殿山）は山伏修行が現在も行われており白装束の方やほら貝を持った方などたくさんの参拝者で大変にぎわっていました。

特に私達が下った道は登りの方が多く登山者というより参拝者のほうが多かったのであらためて信仰の山ということを感じました。

とにかく多くの方とすれ違いましたので今後のトラブル防止の為、特に細い道ですれ違う時に以下のような情報を視覚障害者の方に提供する必要があると感じました。

- ・どちら側から上がってくるのか
- ・道幅はどれくらいか
- ・何人くらいすれ違うのか
- ・ストックを突く場所の注意点

前後のサポートを担当する際にはアナウンサーになった気分です。状況解説をしていきましょう♪

焦って降りるとアクシデント誘発原因となりますので時間を考慮しながらもあらゆる配慮を忘れず最後まで緊張感を持って安全第一でいきましょう！

記：M.Yさん

【石巻のT君からの感想】

今回の登山にも、参加できてうれしく思っています。前から修験道の山で有名な出羽三山に登ってみたい、今回の登山は楽しみにしていました。

今回は、参加者が少なかったのですが、山小屋では、僕たちの部屋が一番にぎやかでした。今回の登山は、僕にとっては2回目なのですが、前回の秋田駒ヶ岳登山よりも新しい発見がた

くさんあり、来月の船形山登山も楽しみにしています。本当にありがとうございました。船形山の時もよろしくお祈りします。

今回、参加者が少なく、僕のために石巻まで同行してくれたA Iさんや、今回の登山を主催してくれたABさんには、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

記：T.T君

コースタイム

7/28 湯殿山本宮 (11:00) … 装束場 (12:10-12:40) … 金姥 (13:55-14:05) … 牛首 (14:40-14:50) … 月山頂上小屋 (15:40)

7/29 月山頂上小屋(山頂往復後出発 6:45) … 仏生池 (8:00-8:05) … 月山八合目 (9:15)

第6回自然と親しむ子ども山登り教室

★六ツ石山(6月17日)

参加者 子ども3名
スタッフ4名
別働隊 スタッフ1名
会員(障害者2名、健常者6名)

梅雨の真っ最中で、明け方まで強く降っていた雨が、家を出る頃にはほぼ止んでいた。水根でバスを降り、声だしとストレッチの後、車道を登っていく。少し登ると、後ろ側に御前山が見えてくる。さらに登ると、奥

多摩湖とその奥に、月夜見山や三頭山が見えてきた。曇り空だが視界はよい。



登山道に入ると、植林帯の急登が続く。適当な休憩場所もなく、これでもかこれでもかと続く急登。休憩の後、歩きはじめたばかり

なのに、また「休憩して」というKちゃん。「もう少しだからがんばろう」と励ましなが
ら登る。ようやく傾斜が落ち、木々の向こう
に空が見えるようになってきて、トオノクボ
に到着した。予定より遅れているので、ここ
で昼食タイムとする。虫が多くて、私は、今
年初めてブヨの洗礼を受けてしまった。



トオノクボからは防火帯の広い尾根を登る。
ワラビがたくさんあって、子どもたちが
お母さんへのお土産にと摘んでいる。大きな
葉のマルバダケブキもたくさんあった。ヤマ
ツツジもまだきれいに咲いていた。



六ツ石山の山頂に到着すると大学生くらい
の若者の集団が登ってきた。鷹ノ巣山に登っ
てからこちらに来たらしい。さすが、若さだ
ね。「紐でつないで」というKちゃん
の要望を聞いて、ここからまたロープで繋ぎあ
って下ることにする。S君は、先頭になりたく
てしようがなかった。しかし、途中でみんな飽
きたようで、ロープをしまうことになった。

三の木戸山を過ぎると泥だらけの道となる。
滑って転んだり、迂回したりしながらも、順
調に下っていく。途中で靴を洗って、車道を
歩き、全員無事に奥多摩駅に到着した。



今回は、登りの標高差が950mもある厳
しいコース。4年生のSちゃんは余裕で、小
2のY君と小1のKちゃんも、いろいろ楽し
みながら、しっかりと歩き通した。子どもた
ちの将来が楽しみです。 記：M.Aさん

《参加者の感想》

行く前から天気が気になっていましたが、
当日は家を出るときは小雨で山を歩くときは
すっかり雨はやんで適なお湿りで山は歩き
やすかったと思います。

Yが男の子たちがいないことにはがっかりし、
すっかり登る気をなくしてましたが、いざ山
にいってみればSちゃんにべったり。サポ
ートさんや別働隊の方たちの声かけを聞いて、
しっかり歩いていたので安心しました。人の
ちからの強さを感じた山行でした。

山を降りてからの着替えではY夫妻にすっ
かりお世話になり、ありがとうございました。
子供たちはそれをちゃんと覚えていて、今度
は自分が人にしてあげていくのでしょうか。山
に登る中で人と人との絆や助け合い、ふれあ
いを学んでいく子供たちを見ていると頼もし
くなります。今までで一番疲れた山だったよ
うでしたが、また行く気になるまで待って

ます。

サポートスタッフの方、別働隊の皆様、ありがとうございました。今年の子供登山はここで終わりましたが、来年にはまたお世話になります。よろしくお願いいたします。

記：S.Kさん

コースタイム

水根(10:10)…トオノクボ(12:40-13:10)…
六ツ石山(15:50-16:15)…奥多摩駅(17:30)

★北横岳(7月7日～8日)

参加者 子ども3名

スタッフ3名

別働隊 会員(健常者3名)

この土日は、次第に天気予報が悪くなり、2日間とも雨になる可能性が高くなってしまった。それでも、梅雨前線のわずかなずれで晴れたり曇ったりする季節のため、青空がのぞくことを期待して出発する。

土曜日の予定は竜源橋から亀甲池、北横岳経由で北横岳ヒュッテに行く予定だったが、天気が良くないことと、体長が思わしくないという方もいたので、ロープウェイで坪庭に上がることにする。ロープウェイの乗り場からすでに霧の中だった。

真っ直ぐヒュッテに行くのではおなかも空かないため、雨池を往復してからヒュッテに行くことにする。今は雨が降っていないが、明け方までの雨で湿地帯はかなり水が増えて木道が水の中に沈むくらいだった。縞枯山荘を過ぎ、雨池峠を過ぎて、雨池へと下っていく。大きい石がたくさんあり、歩きにくい道だ。それでも、霧が晴れて、奥秩父方面が見える時が出てきた。

S君は、どんなことにも興味津々だが、特に水が大好きなようだ。伏流水の音に驚き、伏流水から表面に出てくるところを見つけ、また地下に潜っていくところも見つけた。運動神経も抜群で、とにかくS君の普通ではない能力には脱帽だ。



ジャンパー番岩の道を下るS君

大河原峠林道に下り、しばらく林道を歩く。ダケカンバの緑が美しい。案内板に沿って雨池方面に下ると、木の間から白い湖面が見えてきた。北八ヶ岳を代表する3つの池のうちの一つだけあって、とても大きい池だ。子どもたちは、材木を舟に見立てて沖に出して遊んだり、笹舟で遊んだりしている。とにかく、とても楽しそうだった。



北八つの池を代表する雨池

来た道を引き返し登っていると、雨が降りだした。Sちゃんに「真っ直ぐ小屋に行きたかったのに」と怒られるが、今回は来月の立山のトレーニングなのだからというのだが・・・。

ロープウェイの駅で休憩した後、坪庭を半周して、急な登りを少しがんばると、北横岳ヒュ

ッテに到着した。小屋の夕食は、何と馬肉のすき焼き。初めての経験で、なおかつらふく食べられて満足でした。食後は、小屋に泊まった他の方と談笑し、早々に床に入った。



ふり向いた小5のS.Iさん

2日目は雨で空けた。小屋の外の温度は、8℃しかない。朝食の後、北横岳の山頂を往復する。足下には、オサバグサやミツバオウレン、ゴゼンタチバナ、コイワカガミなどが咲いている。メボソムシクイやルリビタキ、クイタダキなどのさえずりも聞こえる。



水のあるところは興味津々小4のS.K君

北横岳の山頂は、遮るものがなく展望がよいはずだが、今日はどこを見ても乳白色で何も見えない。写真だけ撮ってすぐに下る。

小屋に戻り、来た道を引き返してロープウェイの駅に戻る。そこからまた雨池峠まで行き、そこから縞枯山への登りが始まる。この登りが、今回最もきつかった。ジグザグが切なくて、ずっと直登だった。しかし、標高はぐんぐん稼げる。

縞枯山の山頂でも集合写真を撮り、次の茶臼

山に向かう。途中の展望台は、見晴が良さそうだったが、今日はほとんど周囲が見えなかった。茶臼山でも展望台を往復したが、一瞬だけ麦草峠に登ってくる車道が見えただけだった。



北横岳山頂にて

急な道をごんごんと下ると、中小場に到着した。ここでヤッホーというとてもひびいて、こだまが返ってくる。子どもたちは何度も大きな声を出していた。雲も切れ始め見晴のよいところだったので、ここで昼食にする。ここで、だいたい時間が読めてきたので、タクシーを呼ぶ。



一番お兄ちゃんの中1K.I君も楽しんだ

最後の下りをごんごんと、麦草峠にある茶水池に飛び出した。オタマジャクシがたくさんいた。もっと歩きたいという意見もあったので、ここから白駒池まで行くことにする。最後はタクシーを待たせてはいけないと思い、かなりのハイペースで子どもたちと池を見て、タクシーの待つ駐車場に下りてきた。

1泊2日以上での登山だと、雨が降る可能性も高いため、雨の山を経験できたことは大きなブ

ラスだったと思う。子どもたちの個性をととても楽しんだ2日間でした。スタッフ&別働隊のみなさま、ありがとうございました。

記：M.Aさん

《参加者の感想》

天候が悪いとのことで登りはロープウェイを利用することになり内心喜んでいました。しかし、茅野に近づくにつれ晴れてきたので歩かなければ行けないかと心配していましたが翔太郎君は「せっかくお金を払って山に登るのにどうしてロープウェイにのるの?」と書いていたので私と鎌田さんが目を見合わせて「その通りだね」と言いました。(笑)

何分、ひざが悪く5ヶ月ほどグルコサミンとコンドロイチンを飲み続けてみましたが今のところ改善をみる自覚症状はありません。

★立山(8月3日～5日)

参加者 子ども2名
スタッフ3名
別働隊 会員(障害者3名、健常者6名)

☆8月3日

第6回目となる「自然と親しむ子ども山登り教室」の最後は、3,000m峰の立山三山の縦走だ。大人だけのグループであれば、夜行で来て、1泊2日で十分歩けるコースだが、夜行バスで来て寝不足の子どもたちには、負担が大きく体調を崩す危険があるため、余裕を見て1日目は室堂散策から一ノ越山荘までとする。

タテヤマリンドウやチングルマなどが咲き乱れるお花畑を楽しみながら、みくりが池、血の海、リンドウ池と歩き、雷鳥荘から引き返す。

しかしながら1回登るごとに1か月寿命が延びることを信じて歯を食いしばって頑張っています。(涙)

記：K.Yさん

コースタイム

7/7 ピラタスロープウェイ頂上駅(12:25)…
雨池峠(12:45)…雨池(13:50-14:10)
…ロープウェイ頂上駅(15:25-15:35)
…北横岳ヒュッテ(16:20)

7/8 北横岳ヒュッテ(6:45)…北横岳
(7:00-7:10)…北横岳ヒュッテ
(7:20-7:30)…ロープウェイ頂上駅
(8:10-8:30)…縞枯山(9:15-9:30)…
茶臼山(10:30-10:55)…麦草峠
(12:30-12:40)…白駒池(13:00)…白
駒池入口(13:15)

みくりが池まで戻り、ミドリガ池を経て、日本最古の山荘といわれる室堂山荘に行き、その近くで昼食タイムとする。昼食後は、行者が修行したといわれる玉殿岩屋を見学に行く。板状節理の岩の下にできた岩小屋が玉殿岩屋だった。



室堂山荘から何度か雪渓を渡り、小学校の大集団と行き交いながら、一ノ越に向けて登る。一ノ越に着くと、東側の展望が一気に開け、槍穂高連峰から表銀座の山々、野口五郎岳などがよく見える。

早い時間に一ノ越山荘に着いたため、受付を済ませた後、竜王岳方面に登ってみる。チシマギキョウやイワギキョウ、イワツメクサ、タカネツメクサなどが咲き、山腹にはハクサンイチゲやミヤマキンポウゲのお花畑が広がる。ただ、風が強いため、花の写真撮影はちょっと苦労する。



竜王岳付近から見た五色ヶ原、薬師岳方面

順調に登って富山大学立山研究所の広場に着く。ここからは、五色ヶ原や薬師岳、黒部五郎岳、槍穂高連峰などの展望が広がり、素晴らしい眺めだ。ここで引き返そうと思っていたが、竜王岳まで踏み後があったため、登ってみることにする。登ってみると、表銀座や針ノ木岳などの山々が見え、さらに素晴らしい展望だった。



竜王岳山頂にて

展望を楽しんだ後は、山荘に下る。子どもたちは、下りを怖がることもなく、軽やかに下っていく。あとは、山荘でゆっくりして、おいしい夕食をいただく。部屋の窓から美しい夕日が見られた。夜半にK君と外に出てみたが、満月が明るすぎて、満天の星空とはいかなかった。

☆8月4日

今日は、素晴らしい天気で明けた。山荘から御来光は見えないが、槍穂高など北アルプス南部の山々がくっきりと見える。さらに、八ヶ岳や南アルプス、そして餓鬼岳の上に富士山も見えていた。

山荘を後に、今回一番の急登になる雄山への登りをがんばる。多くの雪田が広がる室堂の風景や岩の割れ目に咲くチシマギキョウなどが楽しませてくれる。傾斜が緩くなる中間地点を過ぎ、もう一がんばりすると雄山の頂上に飛び出す。針ノ木岳から鹿島槍ヶ岳までの後立山の展望が一気に開け、最高の気分になる。子どもたちを初め、数人の人たちが雄山神社に参拝する。雄山神社からの展望は、さらに良かったことだろう。



お山の山頂に到着、槍穂高も見える

雄山でゆっくりした後は、大汝山に向かう。岩の尾根をトラバース気味に歩くが、切れ落ちたようなところはなく、順調に歩いていく。雄山から20分ほどで大汝山に着く。ここは、立山連峰の最高峰で、さすがに展望がよい。足下には黒部ダムと黒部湖が見える。剣岳も間近に見えるようになり、白馬岳もよく見えている。ちょっとしたスリルのある岩の上に立って、撮影し合う。

大汝山からも岩の尾根をトラバース気味に歩き、次の富士の折立に到着する。ここは山頂への登山道がないため、山頂手前の標識のとこ

ろで休む。すぐ近くに雪渓がある。その脇には、タカネヤハズ/ハコやヨツバシオガマなど、いろんな花が咲いている。



富士の折立を過ぎると、東側に大きな雪渓が広がる内蔵ノ助カールが見える。その上には内蔵ノ助山荘もある。私たちは、カールに沿って尾根を歩き、真砂岳へと向かう。ここまで来ると、岩の尾根もザレ場となって、広い尾根になる。真砂岳からの展望も抜群だった。



真砂岳から標高差で 100mほど下り、最後のピークの別山を目指す。ここを登れば今日の登りはお終いだ。そろそろ疲れが出てきたようで、ペースが落ちるが、ほぼ予定時間に別山に到着する。剣岳が大きく見えるが、北峰の方がより近くに剣岳が見えるため、北峰まで行って昼食とする。

正面に見える剣岳はもとより、後立山連峰や表銀座方面の山まで、展望を恣にお昼を楽しむ。Sさんからは、おいしいコーヒーまで作っていただいた。



別山を後に剣沢小屋に向かうが、尾根を外れると携帯電話は繋がらないため、尾根上で、金曜日の夜、東京を出発して後を追いかけてくる後発メンバーに電話をしてみる。こちらからの電話には出なかったが、Nさんから電話がかかってきて、真砂岳の登りにさしかかっているとの連絡をもらう。視覚障害者2人に対してサポーター3人だったので、やや心配だったが、立山を超えたことで一安心した。



別山乗越まで行かず、直接剣沢小屋に下るルートに行くことにする。斜面をトラバースし、急な下りへと入っていく。しかし、子どもたちは怖がることもなく、順調に下っている。

途中から、登山道の横にある雪渓をすべってみようとするが、まだ少し急なため、もう少し下ってからすべることにする。別山乗越からの登山道と合流する付近からは雪渓の傾斜も落ち、滑り落ちることもないため、K君にも雪渓をすべってみることを勧める。M、YさんとSさん、Kさんも加わって雪渓を歩く。M、Yさ

んは、雪溪の上のK君の写真を撮ってあげている。ただ、傾斜が緩くなったため、あまりすべらなかつた。



キャンプ場では、今日テントで泊まるS、Yさんたちの良いテントサイトを探しながら歩く。場所が決まったところで、剣沢小屋まで下



り、宿泊の受付を済ます。部屋は貸切ではなかったが、ゆったりとスペースを使えた。小屋にはシャワー室があり、時間によって男女が別れている。



小屋の付近は混んでいるため、剣岳が映る池

まで行き、すばらしい風景を楽しみながら無事の到着を祝う。後発組のみなさんも無事にテント場に到着し、小屋まできてくれた。剣沢小屋でもおいしい夕食をいただいた後は、ぐっすりと眠りについた。

☆8月5日

今日もすばらしい天気で明けた。剣岳を背に、集合写真を撮って、出発する。テント組と合流し、別山乗越に向けて登り始める。チングルマを中心としたお花畑が何度も現れ、楽しませてくれる。K君は一人で雪溪を登っている。雪の上を歩くことが大好きになったようだ。

別山方面への分岐で休憩した後、お花畑の中を登っていく。チングルマやハクサンイチゲ、クルマユリ、トウヤクリンドウ、クモマグサなど、いろいろな花が楽しめた。



別山乗越に立つ剣御前小屋に到着し、Nさんから室堂乗越経路で下った方が傾斜が緩くて良いという提案があり、所要時間も10分ほどしか変わらないため、そちらに行こうと思ったが、そちらは急な雪溪があり要注意という看板があったので、当初の予定どおり、雷鳥坂を下ることにする。

雷鳥坂にはいると、室堂がよく見え、その向こうに薬師岳もよく見えている。右手には奥大日岳もよく見える。足下に咲くイワオトギリやミヤマダイモンジソウ、クルマユリ、ハクサンボウフウなどを楽しみながら、ぐんぐん下って

いく。目の前には、昨日、縦走した立山三山がよく見える。

ぐんぐん下っていき、チングルマのすばらしいお花畑を通り過ぎると、称名川の畔に到着する。ヤマガラシが清流の畔に咲き、すばらしい風景を作り出している。



チングルマ

雷鳥沢のテント場を過ぎると、最後の登りとなる。暑くなってきて、長く下った後なので、この登りはこたえる。それでも、みんながんばって登り切り、みくりが池温泉に到着する。ここで、3日間の汗を流し、さっぱりして室堂に到着する。

室堂からは、トロリーバス、ロープウェイ、ケーブルカーと乗り継いで、黒部ダムに到着する。ダムでは、放流が行われていて、迫力ある音と、すばらしい虹が見られた。ダムからさらにトロリーバスで扇沢まで行き、そこで路線バ

スに乗り換え、信濃大町駅まで行く。帰りの特急は、無事座って新宿駅に向かうことができた。

ある著名な心理学者の方が、子どもが思春期になるまでに、「あー、楽しかった」という思い出をできるだけたくさん貯金しておくことが大切だと言っていました。子どもたちの夏の思い出として、きっと「あー、楽しかった」が残ったことでしょう。

子どもたちのことをしっかりと見守っていただいたスタッフを初めとして、参加者のみなさまに感謝いたします。

記：網干

コースタイム

- 8/3 室堂(10:20)…雷鳥荘(11:00-11:15)
…室堂山荘(12:00-12:40)…一ノ越山荘(13:45-14:20) … 竜王岳(15:10-15:20)…一ノ越山荘(16:05)
- 8/4 一ノ越山荘(6:50)…雄山(7:55-8:30)
…大汝山(8:50-9:15)…富士の折立(9:30)…真砂岳(10:25-10:40)…別山北峰(11:45-12:30) … 剣沢小屋(13:50)
- 8/5 剣沢小屋(6:05)…テント場(6:30)…剣御前小屋(7:30-7:45) … 称名川(9:15-9:30)…みくりが池温泉(10:15)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第1回生藤山）

ぼくは、歩くのが好きだから楽しかったです。子どももいっぱいいて、いつもより楽しかったです。理由は、子どもがいると遊べるからです。

山でさるを見たのは、はじめてでした。これからもいろんな動物に会ってみたいです。みんなで「ヤッホー」と言って、こだまが返ってきたのもはじめてで、楽しかったです。山は、きせつが少しおくれていて、きれいでした。ひさしぶりの山登りだったので、次の日、おじいさんみないに、こしがいたくなってしまうました。学校へ行く時に歩道橋の階だんの上りと下りがつらかったです。

小4 S.K君

いつもとちがうでんしゃにのっではじめてのとざんにいきました。あるきはじめて6ふんか7ふんぐらいたったら、つかれてきてみずをのんでまたあるいてなんふんぐらいたったら、じんじゃがあつてきゅ（う）けいたら、またあるいてなんふんかしたらちょうじょうについて、ひるごはんをたべてつぎのちょうじょうについておりてきて、やっほーてゆったら、かえてきてとちゅうでかえるのがいてびっくりしました。たのしかったです。 小2 K.T君

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第2回丸山）

スタートは、先がどこまでも続きそうな車道からだった。

そこは、日かげがなく太陽の日ざしが体にジリジリ伝わってきた。そんな暑さを30分ほど絶えるとようやく山道が見えた。そして、日かげに入ると安心して一息ついた。

そこから、しばらく歩くと、まるでそびえ立つ壁のような坂があった。そんな坂を低学年の子供たちは、軽々と登っていく。しかし僕は体が重く身軽に走れないので、精いっぱい力を出して、かけ登っていった。追いついたと思えば、また同じような坂があり、小さい子供たちは登っていく、のくり返しで頂上に着く頃にはヘトヘト……。気力が無くなりそうでした。でも「小さな子たちの面倒は僕が見るんだ！」と自分に言いきかせて、頂上までなんとかたどり着くことができました。しかも頂上の展望台からの景色はとても素晴らしかった。

中1 K.I君

「えっ！」わたしは正面を見ました。なんと、かべのような急坂が目に入ってきたのです。ゆっくり登っていたら、よけいつかれると思ったので、わたしは突っ走って行きました。そしたら、いつの間にか、のぼりきっていました。そして、頂上に着いたら、てん望台がありました。階段をかけ上がって、てん望台の一番上に行ってみました。すみに望遠鏡があり、見てみると大きすぎて、ピントが合わず、景色は見えませんでした。

帰りの電車の中でスタッフの方から竹笛をもらいました。うれしかったです。家でピーピー鳴らしていると「うるさい」と言われてしまうのでこれからは山に持って行き、思いきり良い音が出るように鳴らしてみたいです。ありがとうございました。 小5 S.Iさん

ぼくは、下りを走ってごめんなさい。

下りを走っていると、気持ちよくて、止められませんでした。でも、ロープに、つながれたのも楽しかったです。丸山は、上りが急で、すべりやすく、登りにくかったです。けっこう、足がつかれました。次はカップラーメンを持って行きたいです。

小4 S.K君

- ・たくさんのお友達と一緒に歩いてよかった。
- ・水のあるところが楽しかった。
- ・ロープはじめははこわかったけど楽しかった。
- ・電車で座れてよかった。

小2 Y.K君

- ・たくさんのお友達と歩いてよかった。
 - ・山の上で食べたおにぎりがおいしかった。
 - ・水の中にポチャンって、落ちちゃったけど、おもしろかった。
 - ・電車の中でゲームをやって楽しかった。
 - ・みんなと歩くと楽しい。
 - ・電車ごっこ、またやりたい。
- 小1 K.Kさん

丸山と（いう）山にいきました。いっしょにいた人は、かつみやはるきといっしょについて、さいしょはでんしゃにのって、しばらくすると、またのりかえをして、なんかいかのりかえすると、いっしょに山のぼりをする人がいて、そこで朝ごはんをたべて、ちょっとしたらしゅうごうばしょがあって、やまのぼりをかいして、ちょっといたら、どおろがあて、そこをのぼりはじめてから、ちよつ（と）すると、きんいろな虫がいて、びっくりしたら、おじさんがこめつき虫をつれてきてくれたので、うれしかったです。

ちょうじょうにつくまえにきんいろなかなぶんがいて、つかまえてひるごはんをたべおわっておりてきていちにちおわりです。

小2 K.T君

さいしょは、かんたんだと思ったけど、ちよつとむづかしかったし、ちょうじょうまでちよつと時間がかかった。ありじごくがちょう上までにいっぱいあったし、めづらしい花っていうのもあった。

小2 H.S君

★H.S君のお母さんから

今回も一番印象に残っているのが、駅の改札をでてくる子ども達の表情でした。イキイキして自信に満ちた、とてもよい顔をしていました。後日、祖父母にも山登りの事をお話していました。登れた事を自慢していたようです。

よい体験をさせて頂きありがとうございました。

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第3回六ツ石山）

六ツ石山は、登りはじめから急坂でした。私は、あまりにも足がつかれ、ペースがだんだんおそくなっていきました。

休けいの後、しばらく登っているとまたすぐに足がきつくなりました。私は上を見てもと頂上が見えたので、上を目指して行ってみると、まだ着かず、途中の「トオノクボ」まで着きました。また、さらに登っていき、ようやく山頂に着いた時は、ものすごくつかれてしまいました。

次の山は山小屋に泊まります。またがんばりたいです。

小5 S.Iさん

皆とお弁当食べて楽しかった。皆と電車ごっこして遊んで楽しかった。疲れました。KくんやSくんと会えませんでした。Sちゃんとまた行きたいです。

小2 Y.K君

楽しかった。皆と居て楽しかった。皆と歩いたから楽しかった。疲れました。鳥が鳴くので静かにしてと言われました。Sちゃんとまた行きたいです。 小1 K.Kさん

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第4回北横岳）

前回からの部活の疲れで、移動中のバスの中ではずっと眠っていました。

そして、バスから下りると、ひんやりとした空気が入りこみ、それと同時に、北横岳へ行くロープウェイ乗り場に着きました。そのロープウェイ乗り場は、見覚えがありました。そこは一昨年、家族で遊びに来たスキー場でした。そこからロープウェイに乗り、北横岳の登頂口へと行きました。そこから山登りのスタートです。しかし、天気は悪く、前が深い霧で1m先も見えません。おまけに雨も降っていました。そこから、北横岳とは別の「雨池」という場所まで行きました。初めは木道で、とても歩きやすく、楽に歩いて行けました。しかし、20分程で、木道は終わり、ぬかるんだ道や岩がゴロゴロした道が雨池までずっと続いてとてもつかれました。

1時間ほど歩くと、ようやく雨池に着きました。その頃には、天気が少し回復し、晴れ間が見えました。その雨池でS君と木を浮かべて遊びました。こんな遊びをするのは、数ヶ月振りでした。一時間半ほどでようやく北横岳の登頂口にもどり、ようやく北横岳へ登りました。今回の山は、ぼくの得意な岩場系の山だったので、軽々と登って行けました。そして、約1時間ほどで北横岳ヒュッテに到着しました。

その晩ご飯は、「馬肉のすき焼き」で今まで食べたことのない馬肉をお腹一杯食べました。

2日目は、朝5時半起床。とても眠かったです。が、出発の準備に取りかかり、7時ころヒュッテに荷物を置き、近くの北横岳山頂へ向かいました。山頂は5分ほどで着き、登頂成功しました！ 再びヒュッテに戻り下山しました。時間が余ったので、近くの縞枯山や中小場などに行きました。その途中には展望台があり、霧の間からとても良い景色を見ることができました。そして、中小場で目の前に山があり、S君といっしょに山びこで遊びました。そんな山登りもいつの間にか終わり、最初のロープウェイ乗り場に帰って来ていました。今回は、天候が最悪でしたが、登山中に色々な事があってとても楽しかったです。

中1 K.I君

今回の北横岳は、天気が悪かったので、ロープウェイで行きました。道はしばらく木道でした。そして、進んでいくと、大きな岩がたくさんあり、雨水が流れ、岩がしめっていたので、すべってしまいました。

そして、あま池に着きました。ちょうど7月7日の七夕だったので、笹舟を流して遊びました。また岩場を登りながら、ようやく山小屋に着きました。夕食は、馬肉のすき焼きでした。初めての馬肉でしたがおいしかったです。

二日目は一度荷物を置いて山頂に行きました。山頂は残念ながら曇っていて景色は見られませんでした。今回は地面がぬれていて、岩が多くつかれました。 小5 S.Iさん

ぼくは、池で船をうかして遊ぶのが楽しかったです。てんぼう台の岩を登るのも楽しかったです。

山小屋にとまるのは初めてで、夜ねる時けっこう寒かったです。頂上は、雲の中でよく景色が見えなくてざんねんでした。また天気がいい日に行きたいです。山小屋にとまる山にまた行きたいです。今度、星を見たいです。

小4 S.K君

山行報告

★赤城山(6月2日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

会員外(健常者1名)

今回は、赤城山の中で最も高い黒檜山には登らず、展望が良く一等三角点の設置されている地蔵岳と三等三角点が設置されている長七郎山に登った。

バスを降りたところで、早速近くに現れてくれたキビタキを見つけ、写真に収める。キビタキは梢ではなく、葉の生い茂る中心部にいるためなかなか見つけにくい。しかし、林の中にいるため、逆光になりやすく、見つかると色合いが良く分かる。雄の姿の美しさは、日本で見られる野鳥の中でも五本の指にはいるくらい美しいのではないかと感じる。

登山道に入るといきなりの急登となる。みんな大丈夫かなと心配しながら標高差で100mほど登ると傾斜が落ち、展望も良くなる。これから登る地蔵岳がよく見え、ふり返ると黒檜山と駒ヶ岳が見える。芽吹きの木々が美しい。

タチツボスミレやヒメイチゲを見ながら登り、最後のガレたところを登ると地蔵岳の山頂だ。黒檜山や大沼がよく見える。ここで少し早い昼食にするが、女子中学生が大勢登ってきた。何でも東京の女子中学の行事できたそうだ。



地蔵岳山頂直下を登る(後は大沼と黒檜山)

地蔵岳を下りはじめると、これから向かう長七郎山と小沼が低い位置に見えた。シラカバの白い幹や新緑が美しい。小沼周辺からは、ミツバツツジやシロヤシオが見られるようになる。あと一週間もしたら、満開で見頃を迎えることだろう。長七郎山も展望がよい。この付近には、サクラスミレがたくさん咲いていた。



長七郎山山頂にて

長七郎山からの下りは、オオカメノキの白い花がたくさん咲いていた。足下には、フデリンドウやフモトスミレが咲き、キビタキもまた現

れてくれた。鳥居峠からは、覚満淵を歩いてピジターセンターのバス停に向かう。サクラスミシが咲き、まさに春爛漫の気持ちの良い場所だ。参加されたみなさま、お疲れさまでした。

記：M.Aさん



美しいキビタキ

《参加者の感想》

素晴らしい好天に恵まれました。

両脇から草がかぶさるような、でも明るい草原・稜線・湿原・沼と多彩な山登りを楽しめました。頂上からの展望もすばらしかったです。山の可憐な花(一晩寝るともう名前は忘れてしまっていますが)に応援されての久しぶりの山歩き、家内は初めての参加での山歩きを楽しめました。石が多いところもあり、筋肉は悲鳴を上げていましたが。次はどこへ行こうかな。

記：J.Kさん

★大平山(6月6日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)
会員外(障害者1名、健常者2名)

今回は、お試し参加の方が3人もいて、とても新鮮だった。

雨天の心配をしていたが、天気予報が次第に良くなり、当日は時折日が差すまですの天気だった。

栃木駅からバスで国学院前まで行き、そこか

赤城山(地蔵岳・長七郎山)山行ですが、1日天気も良くて鳥の鳴き声や姿、花など賞が出来てしかも、皆さん無事に下山出来て良かったです。

記：S.Yさん



花が大きいサクラスミレ

ツツジの満開には少し早かったですが、白い花を咲かすオオカメノキがなんともかわいらしかったです。枝に等間隔で亀の甲のような丸い葉をつけていました。頑張っているキビタキや移動が出来ない植物を見ると、人間は自分達だけが地球上に生活しているのではない事を考えなければならないと思いました。

記：M.Sさん

コースタイム

大洞(10:00)…地蔵岳(11:20-11:55)…八丁峠(12:25)…長七郎山(13:15-13:30)…鳥居峠(14:20-14:30)…ピジターセンター(14:55)

らアジサイ坂に向かう。アジサイがしっかりと咲いているところもあり、期待が高まる。



アジサイが咲き始めていた

しかし、アジサイ坂は余り咲いていなかった。満開になるのはまだ1週間以上先だろう。

アジサイ坂は、1000段の階段があるという。まずは緩い階段から始まり、途中から急になる。急な階段を登ると随神門に着くが、ここからまだ急な階段が続く。帰りに数えたら、最後の階段が300段ほどだった。

大平山神社に着き、展望台から栃木市の町を眺める。雲が厚いが視界は良好だった。ここから不揃いな階段を登り、山頂を目指す。傾斜が落ち、奥宮の祠を過ぎて、さらに行くと、山頂に飛び出した。展望がなく、予定よりかなり早く着いたので、お昼は謙信平で取ることにして、早々に下山にかかる。



大平山神社まで戻り、登ってきた階段を随神門まで戻り、車道を歩いて謙信平に到着する。ここからの眺めは、水を張られた水田が海のように見え、里山が島のように見えることから、陸の松島と呼ばれるそうだ。そう思って見れば、確かにそう見える。陸の松島を見ながらここで昼食タイムにする。山本有三さんの碑があったが、栃木市出身なのだそうだ。

ここから広い道で大中寺まで行くのかと思ったら、とてもすべりやすい登山道で、一番の難所だった。初参加のMさんのサポートをSさんがしっかりとしてくださり、とても助かりました。

大中寺のアジサイを楽しみ、車道歩きから里山歩きになり、最後は迷路のような小径を歩いて新大平下駅に到着した。予定よりも速い電車

に乗ることができ、浅草へと向かった。

記：M.Aさん

《参加者の感想》

東武浅草駅で購入した回数券が誤って土休日用であった為、自動改札を通過出来ないというハプニングがあったが、平日用に買い直して無事予定の電車に乗車。やれやれ。栃木の天気は、強い日差しもなく、曇りがちで山登りにうってつけ。

大平山神社の長い石段を息を切らせ、汗かきながらやっと登りきり神社に到着。

その後は大平山頂上から眺望のよい謙信平へと木々の緑濃く、野鳥のさえずりが聞こえる山道を自然に包まれて歩く。昼食後の下り道は湿った滑りやすい道であった為、転んで足など傷めないよう慎重に下り、予定より早く新大平下駅に到着。梅雨時期にもかかわらず雨にも遭わず、まずまずの山行でした。

記：A.Sさん

新越谷から合流。梅雨に入ってしまったが、大平山はまずまずのお天気。歩くのには調度良かったと思います。いつもの山は2~3人ぐらいですが、今回はたくさんの方達と登ることが出来ました。スタートから和気あいあいとゆっくりお話ししながら、長い石段をいつのまにかおわり、神社にお参りをして眺望のない山頂に。その後眺望のある謙信平、帰りは緑の中下、湿って滑りやすい下山道となりましたが、それぞれ気を付け下山途中かわいいお花にもであい予定より早く駅に着くことが出来ました。

記：C.Kさん（会員外）

コースタイム

国学院前バス停(9:40) … 大平山神社(10:15-10:35) … 大平山(10:50-11:05) … 謙信平(11:40-12:20) … 大中寺(12:50-13:05) … 新大平下駅(14:05)

★御正体山(6月24日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

梅雨時のため天気が心配だったが、一度も雨は降らず、時折日が差し込むますますの天気だった。

今回は、4年前に立教大学の学生さんとして、ゼミの一環で参加したOさんがお試し参加だ。社会人2年生のOさんは、久しぶりの運動で体力が心配だと言っていたが、ほとんど疲れのない様子で、元気に登っていた。

池ノ平から作業道を進み、登山道に入ろうとするが、沢を渡るところが不明瞭で、ルートファインディングに時間がかかった。それでもビニール紐の付いた方向を頼りに登ってみると、御正体山への矢印が書かれた道標があって安心した。

とにかく、かなりの急登で、しかも長く続いていた。このコースではたったひとりに出会っただけだった。とても静かなコースだ。妙心法師入定之遺跡で休憩し、さらに急登をがんばると、傾斜が落ちてきた。ここが三輪神社への分岐だと思って、昼食タイムにしたが、どうも道標が、分岐した方向に「大野山、道が不明瞭」と書かれているので、地図を見てみたら、ここは、まだ三輪神社への分岐でないことが分かった。30分ほど遅れていることが分かったことと、とにかく虫が無視できないほど多くて、昼食後は早々に出発することにした。

ここからは傾斜が落ち、三輪神社への分岐を過ぎて、峰宮跡も通過する。一部、危険なところがあったが、無事に通過し、いくつかのアップダウンの後、御正体山の山頂に着いた。峰宮跡を過ぎたところで会った4人パーティーの人が山頂は虫が多いと言っていたが、確かに猛

烈に虫が多かった。山頂も集合写真を撮って、早々に下山する。



峰宮跡からも急な下りが続く。ぐんぐん下っていると、下に車道が見えてきた。皇太子が登った時に付けたのだろうか、立派な手摺りの付いた道を下ると車道に飛び出す。ここから、コンクリート道の脇に付けられた登山道を下るが、途中でコンクリートの道に出る。道路が大きく曲がると、バス路線の道が見え、そこにタクシーが2台待っていてくれた。道志山塊の最高峰の御正体山は、虫の多さに閉口しましたが、参加したみなさま、お疲れさまでした。

記：M.Aさん



《参加者の感想》

今日のメンバーには、力強いIさん、登りはお任せしましょうと私。石老山でお会いした、当時立教大学生で、社会人に成られたOさんのお試し参加。アルプの事、覚えていて下さり嬉しいですね。登山道は荒れている所が遭ったり、

沢もワンツースリーと渡ったり。下りは急勾配のコースでしたが、夏山に向けて足慣らしには良い、山行と成りました。楽しかったで一す。

記：K.Nさん

ホトトギスの甲高い声と溪流の水音に迎えられ、何の予備知識も持たず歩いた御正体山。

登山口には「平成16年、皇太子殿下登頂」の看板あり、さぞや道は整備が行き届いているのだろうと思ったが、昨年9月の台風と先日の台風4号で土砂の流出や倒木が随所にあった。皇太子の御威光も自然の力には及ばなかったようだ。行程の中ほどで「妙心上人御堂跡」とか「座禅岩」などと書かれた標識が現れた。下山後にネットで知ったのだが、「妙心上人」とは、1780年ごろに美濃の国(現在の岐阜県)で生まれた知名度全国区のドエライ坊さんがこの山で修行され、若干36歳で即身仏となられたのだそう。

豊かな緑と豊かな水を湛える山は、虫たちも豊富で立ち止まれば忽ちにして「蚊柱」のごと

く集まってくる虫・虫・虫。我ら凡人はこの虫に閉口した。

即身仏となられたお方は、この虫共を無視して修行されたのだらうから、それはもう「ドエライお坊さんだったのだ」とツマラヌコトに感心した次第である。

記：T.Yさん



コースタイム

池ノ平(9:45)…作業道終点(10:35)…妙心法師入定之遺跡(11:40)…大野山分岐(12:15-12:35)…峰宮跡(12:55)…御正体山(13:35-13:40)…峰宮跡(14:10-14:20)…三輪神社(16:15)

★焼石岳(6月30日～7月1日)

参加者 会員(障害者3名、健常者3名)

会員外(健常者1名)

☆6月30日

梅雨の真っ最中のため、天気が心配だったが、予報はコロコロ変わって、出発前日の予報では、1日目は晴れ時々曇り、2日目は曇りのち雨で、雨の降り出しは夕方になってからだったので期待したが、2日目は朝から雨になってしまった。

ジャンボタクシーで中沼登山口まで入り、準備をして歩きはじめる。休憩したところで、コケイランとギンランを発見する。これは幸先がよいと思ったが、中沼より上では、花また花の



オンパレード。ハクサンチドリが咲き、ミツガシワ、シラネアオイ、リュウキンカ、ミズバショウ、ミヤマカラマツ、コミヤマカタバミなどが咲いている。樹木では、タニウツギやツクバネウツギ、ムラサキヤシオなどが咲いている。中沼では、野鳥のクロジも見ることができた。

山頂方面は、まだまだ残雪が多く、明日は残

雪の上を歩くことになるだろう。上沼を過ぎ、



銀明水手前の木道を歩く

木道を登っていくと、銀明水に到着した。水は冷たくて最高においしい。避難小屋は少し行った先の右手の石でできた階段を上がったところにあった。寝ている方もいたので、銀明水のところにあるベンチで夕食づくりをすることにする。そして、明日の好天を祈りつつ、早々に寝袋に入った。



ミズバショウ

☆7月1日

夜は、雲もあったものの、北斗七星もよく見え、星空はなかなかきれいだった。しかし、朝起きると、空はどんよりと曇っていた。

小屋に泊まった人たち全員が4時に起床したため、こちらも小屋の中で朝食を取ることにする。予定より、1時間近く早く出発することになった。

小屋の前の雪渓を登り、さらに登ると、大きな雪渓があった。ここを慎重に通過する。見晴が良く、麓の水沢の町がよく見える。しかし、上空はどんよりと曇っていた。ただ高山植物は豊かで、ベニバナイチゴやタカネザクラ、ヒナ

ザクラなどが咲いている。ハクサンイチゲやチングルマが咲き始め、これから登る焼石岳や東焼石岳が見えるようになってきた。期待が高まったが、ガスが山頂を隠すようになると霧雨が降り始めた。ムシトリスミシやオオバクスミシなども咲いていたが、雨のためにカメラを出せなかった。



銀明水避難小屋から雪渓を歩く

ハクサンイチゲとチングルマの大きなお花畑を過ぎ、少し行くと東焼石岳への分岐となる。そこを過ぎ、泉水沼も通り過ぎると、横岳への分岐となる。ここから山頂への最後の登りとなる。次第に風が強くなり、雨も横から吹き付けるようになってきた。



焼石岳山頂にて

山頂に到着し、写真だけ撮って早々に次ぎに向かう。南本内岳方面に向かい、大お花畑を見て、東焼石岳山腹を巻いて来た道に戻る予定だったが、天気が悪いことと道がやや不明瞭だったことから、山頂に引き返し、避難小屋に戻ることにする。強風の山頂を通り過ぎ、登ってきた道を引き返す。カップズボンをはかないでいたため、ズボンはびしょぬれで、非常に寒い。

登山靴の中もびしょぬれになってきた。それでも後を待ちつつゆっくりと下る。

避難小屋に着くと、多くの人たちが休憩をしていた。私は靴下を絞って少しでも水分を減らし、ズボンも脱いでカッパズボンをそのままはくことにする。みんな着替えていたようだ。

雨の中、順調に下っていたが、中沼の畔を歩いている時、Fさんが足を踏み外し、沼側に1mくらい落ちてしまった。幸い樹木があって、ケガもなく大きな問題にはならなかったが、細心の注意を怠ってはならない。中沼からの下りも慎重に下る。



ベニバナイチゴ

予定より30分ほど早く中沼登山口に着くと、ジャンボタクシーが待っていてくれた。何でも登りの客を乗せてきたので、そのまま待っていたそう。予定よりも速いタクシーで水沢江刺駅に向かう。花の百名山を存分に楽しみ、充実した2日間を夢に見て、私を含めた多くの人が眠りに落ちていった。

記：M.Aさん

《参加者の感想》

焼石岳は数年前に計画倒れになっていて行きたい山のひとつでしたので今回ここにチャンスに恵まれてラッキーでした。高山植物が多く咲くと聞いてましたのでどれだけの花にめ

ぐまれるか期待していましたが期待通りの多くの花、花、花。右にりゅうきんかの黄色、左に水芭蕉の白、花の魅力で体の疲れもとんでしまします。テンションはあがりっぱなし。避難小屋について外庭での小宴会は虫がうざかったけど、虫にも負けず、楽しく過ごせました。銀明水の湧水は冷たくて美味しくて自然の豊かさを感じました。

初日はよく晴れてタクシーからも焼石連峰がよく見えたのに翌日は途中から雨で残念でしたが、自然のままそのままだ、ありのままを受け入れて・・・焼石岳山頂では風雨の中でも写真撮影でしたがそれもまたひとつの経験。どんな顔をして写ってるのか？楽しみです。

そんな雨の中の山あるきでしたが気持ちの上では晴れ気分。森林の様子から紅葉の頃もきれいだろうなと思いました。またチャンスを見つけて紅葉のころにいきたいです。

高山植物はどこにいても見られるけど、そのとき、その仲間とその時間を共有できたことがわたしには幸せな時間でした。また同じ時間はめぐらないけど、違う場所で違う時間にまたいろんな方に会えることが今から楽しみです。

記：S.Kさん

コースタイム

- 6/30 中沼登山口(11:15) … 中沼(12:05-12:35) … 銀明水避難小屋(14:20)
- 7/1 銀明水避難小屋(5:05) … 焼石岳山頂(7:10) … 銀明水避難小屋(9:30-10:40) … 上沼(11:40) … 中沼登山口(13:00)

キャンプ報告

★第6回ふれあいキャンプ(みの石滝キャンプ場)(8月18日～19日)

参加者 会員(障害者4名、健常者10名)

会員外(健常者9名)

「大人と子どものふれあいキャンプ」は、今年で7回目だ。今回は、小学生が4人と中学生が4人、それに初参加の大人が3人と、久しぶりににぎやかなキャンプになった。

相模湖駅で全員集合し、相模湖公園にある山口ボートまで歩く。まだ、雨は降っていないが、今にも降り出しそうな空だ。

山口ボートから、キャンプ場の迎えの船に乗って、みの石滝キャンプ場に向かう。天気が良いくないせいかカヤックに乗っている人たちはいない。上空では雷が鳴り出している。雨も降りだしてきた。

キャンプ場の人に聞くと、雷が鳴っている状態では、カヌー教室はしないとのこと。取りあえず、バンガローに入り、屋外の屋根のあるところで昼食を取る。



カヤックに乗るA.T君

雨なので、けもの道散策も、あまり盛り上がりがないなと思っていると、S. K君が、何としてもカヤックをしたいと言っているのので、「それじゃあ、雷さまどこかに行って踊りを踊って、雷様にお祈りしてよ」というと、S. K君は、恥ずかしがりながらも2～3秒くらい踊ってくれた。この踊りのおかげか、雨は降っているものの、雷が止み、カヌー教室を実施するとの

こと。

まだ雨が降っていたので、雨具を着て集まった人たちもいた。エイジ先生の話真剣に聞いて、準備体操とパドルの漕ぎ方、カヤックの乗り方などを教わり、いよいよ湖にカヤックで船出だ。



2人乗りカヤックに乗るS親子

二人乗りのカヤックで楽しんだSさん、何度もひっくり返っていた中学生たち、水かけっこをしたりぶつかってしまったり、思いっきりカヤックを楽しみ、次は料理づくりが始まる。



野菜を洗う小学生トリオ

子どもたちは、みんな積極的に手伝ってくれる。特に中学生たちは、「何か手伝うことはありませんか」と、野菜を洗ったり、切ったりしたりして手伝ってくれる。火をおこすのは、Sさんと火遊び大好きなS. K君が中心になってやってくれた。今回は、カレーライス。材料を煮る頃になったら、大人はビールで乾杯。

次第に宴も盛り上がり、M. Kさんのギター、R. Mさんのフルート、そしてM. Yさんの歌と、次々に歌が飛び出してくる。

今回、キャンプ場に着いてからキャンプファ

イヤーを申し込んだが、すでにいっぱい私達はできないとのこと。それじゃ、他に人がいたら、仲間に入れてもらおうと思い、同じ炊事場の若者グループに聞いたら、彼らはキャンプファイヤーをすること。早速、話はまとまり、仲間に入れてもらう。



野菜を洗う中1トリオ

キャンプファイヤーは、いろんな歌や踊りがあり、キャンプファイヤーの周りをぐるぐる回って、大盛り上がり。さすが若者たち、とっても元気です。そして、こちらで準備したスイカ割りに、若者たちにも加わってもらいます。割れたスイカをみんなで分け合って、一口ずつ食べます。その後は、若者たちが持ってきた花火を、こちらの子どもたちにもさせてもらいました。若者グループのみなさん、ありがとう！



若者グループとキャンプファイヤーを楽しむ

あとは、そのまま寝る人、いろいろ語り合う人などに別れ、夜が更けていきました。

翌朝は、6時に起きて朝食準備。おいしそうなスクランブルエッグ、ウインナー、レタスのサラダ、みそ汁などができて、朝食タイムを楽しむ。



線香花火を楽しむY.K君

食事のあとは、けもの道探索に出かけます。すべりやすい急坂でなかなか険しい道でしたが、15分ほどで山頂に到着。下りは、Bコースを通過して炊事場に戻った。まだ、キャンプ場を出発する船に時間があるので、みの石滝も見に行く。ここもすべりやすい道で、なかなか険しい。途中、イワタバコがたくさん咲いていた。みの石滝は、2段30mほどの滝だった。

出発時間ぎりぎりに船着き場に着了いたため、集合写真は相模湖公園で撮ることにして、急いで船に乗る。全員乗り切れず、数人は、エイジさんの船に乗って、我々を追い越していった。

相模湖駅に着き、ここで解散。子どもたちの笑顔をいっぱい見せてもらったキャンプが無事に終わりました。みなさまのご配慮、ご協力に感謝申し上げます。 記：M.Aさん



けもの道の頂上にて

《参加者の感想》

○キャンプファイヤー

隣で食事の準備をしていたグループの方々と合流させていただきキャンプファイヤーを楽しむことができました。

子供たちは火の周りをグルグル走り回って大盛り上がりでした！

花火もやらせていただき、スイカ割りも一緒に楽しむことができました。

A さんのみんなで楽しむ才能と交流術はさすがです♪

○食事の準備

今回は中学生トリオが材料のほとんどをカットしてくれました。

小学生チームもサラダの盛り付けに奮闘してくれました。

去年は火のコントロールに四苦八苦していましたが今年は S さんの適格な調整により大変おいしいご飯が炊けました。

「はじめチョロチョロ中パッパ、赤子泣いても蓋取るな」というのは沸騰したら火を弱めご飯のおいがしてくるまで蓋はとらないということだそうです。

S さんは絶妙なタイミングで火のついた薪を取り除き調整してくださいました。

着火剤も大変便利でしたが燃料もだいぶ節約できました。

みんなで作ったカレーライスはおいしかったですね♪

○盲導犬とのお泊り体験

盲導犬と一緒に 2 日間過ごすという貴重な体験をさせていただきました。

大人数の中でもキャンプファイヤー中でも全く吠えず、M さんの言うことのみ忠実に従う盲導犬は本当によく訓練されていると思いました。

ネットで調べてみると以下のようなことが書いてありました。

- ・盲導犬は身体障害者補助犬法という法律により、どこでも入ることができる。
- ・排尿・排便は決められた号令、時間、場所でするよう訓練されている。

・外出の際も、あらかじめ袋のついたベルトをつける簡単な方法がある。

→M さんも盲導犬に袋をつけて歩かせていました。

排泄などのお世話は N さんがサポートしてくださいました。

・のぼりくだりの段差を見つけたら止まって教える。

・「ヒール」とはユーザーの脇のポジションに付くこと。(これが定位置)

・人が求めることが出来たら「GOOD」と褒める。 記：M.Yさん

★キャンプに参加して

相模湖で船でしかいけないキャンプ場だと聞いていたので、陸の孤島に行くみたいで子供達よりわくわくしてました。

いってみればそこは異空間。神奈川県とは思えないほど静かでのんびりくつろげました。

子供たちは初めてのカヌー体験に準備体操、えいじさんの説明も真剣に聞いてました。

目は光輝いていて、カヌーに乗った時のあの笑顔はたまらなくかわいい。

大人も子供もみんな遊んでいるときは同じ顔してるんですね。

Yはたまに岸や木にはまってましたが、困ったときはどうするんだっけ？

大きな声で「えいじさん」と叫んでいました。はじめはぎごちなかったのですがだんだん上手になって川の水面をすいすいアメンボのよう。ボートで波を作ってくれるのですがその波がくるたびにキャーと言いながら楽しんでました。今年の夏一番の最高の体験ができてよかったね。終わった時の二人の顔は赤く焼けていました。

食事作りも子供は好奇心の塊。なんでもやりたがり。すべてを全身全霊でやりこなす。

家では見たことがない違う顔をまたまた発見しました。

キャンプって最高だね。二人がもういかない
ってこの日まで一緒にいきたいって思います。

記：S.Kさん



★Kさんの紹介で参加し、初めて障害の方々
と身直に接し、一泊を共にし、周りの方々、A
さん初め、皆様方の行動に、感動、尊敬をさせ
られました。語るより先に行動し、何をどうす
る！自然体で片付けて、爽やかに、暖かな深さ
を感じました。お天気にも恵まれて、本当に楽
しめました！

また、機会が会ったら、誘って下さい。あり
がとうございました。 記：S.Sさん

- ・カレーがおもしろかった。
- ・A.Tさんと仲良く遊べてよかった。
- ・サラダを作るとき、レタスをちぎるのが楽し
かった。
- ・トマトがよくきれなくて(トマトがつぶれて)
おかしかった。
- ・はじめて寝袋で寝たけど、すぐに眠ってしま

その他事業報告

★アンケート実施

今年度に入って正会員の人数が大幅に減少
したため、会員みなさまに、会員を増やすた
めの良い方法などをアンケートさせていただきました。
結果は、別紙を参照願います。これ

った。

記：Y.K君



- ・カレーがおいしかった。
- ・A.Tさんと仲良くできた。また会いたい。
- ・S.Kさんと石投げをして楽しかった。
- ・どろんこになってしまったけど、ママがいな
かったので怒られないでよかった。
- ・スイカ割がうまくできなくてくやしかった。

記：K.Kちゃん

コースタイム

8/18 キャンプ場到着(11:50)…夕食
(12:00-12:30)…カレー教室
(13:00-15:00)…夕食づくり(16:00
～)…夕食(17:30-18:00)…キャンプ
ファイヤー(19:00-21:00)

8/19 朝食づくり(6:00～)…朝食
(7:00-8:00)…けもの道探索・みの石
滝往復(9:00-10:30)…キャンプ場出
発(11:00)…相模湖駅(11:40)解散

らアンケート結果を良く読んでいただき、さら
に良い案がありましたら、理事などにご提案く
ださい。

☆八千代市1%支援制度のPRイベントに参加

今年も1%支援制度のPRイベントが実施されましたが、人数制限があり、今回は、網干が一人で1回だけ参加しました。街ゆく人たちにピラを配ったり、説明させたりさせていただ

きました。1%支援制度の普及と共に、山仲間アルプの活動を少しでも多くの方に知っていただけるよう、これからもこのような機会を有効活用していきたいと思います。

各種連絡事項

☆来年度の事業計画立案

そろそろ、来年度の事業計画を作成する時期が近づいてきました。2011年度の臨時総会で、行きたい山のアンケートを取った方が良い

という提案がありましたので、アンケート回答用のはがきを機関誌と一緒に送りますので、ご回答ください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略) また、賛助員にお一人の方がなっていました。

正会員

2名

●退会のお知らせ

残念ですが、下記の方が退会されました。

1名

編集後記

・理事長のつぶやき

石巻のみなさんとの登山が、無事に終了しました。山に登って見たかった子から楽しんでもらえたり、登山に興味のなかった方から山の楽しさを感じてもらえたり、久しぶりに腹の底から笑ってもらえたり、普段から「共に楽しむ」ことを当たり前のこととして実践している山仲間アルプメンバーの山を愛し、人を愛する心が遺憾なく発揮できたのではないかと思います。ただ、まだ震災の影響で苦しんでいる方は

大勢いますし、原発の被害にあった方は、自分の住んでいた土地に帰る見込みさえありません。「私たちはこんな良いことをしています。しっかり支援しています」という奢る気持ちではなく、「この程度のことしかできなくてごめんね」という謙虚な気持ちを大切にして、さらに少しでも社会の役にたつ活動に繋がるように、進んでいきたいですね。

・次回発行予定は、9月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

